



# News Letter

発行

認定NPO法人子どもシェルターモモ  
〒700-0861 岡山市北区清輝橋1丁目2-9  
電話・FAX 086-206-2423



## CONTENTS

- ・卷頭言 ..... 1
- ・特集 ..... 2
- ・ボランティアスタッフ養成講座 ..... 4
- ・「モモの家」通信 ..... 5
- ・「あてんぼ」通信 ..... 6
- ・「学南ホーム」通信 ..... 6
- ・「en」通信 ..... 7
- ・事務局だより ..... 8

〈表紙絵のことば：内村 晓〉

『もらい泣きの森、  
しどと ぽろぼろ 雨の森  
ハンカチ あっても たりません  
どうして そんなに 泣くんです  
「悲しいときも 泣かないひとが  
涙を預けて 行ったから』

## 卷頭言

## 「枝松百合子基金」の創設について

認定NPO法人子どもシェルターモモ 理事長 東 隆司



子どもシェルターモモは、設立以来、多くの個人・団体からのご寄付によって支えられ、運営を続けてきました。

枝松百合子さんは、年金生活の中から毎月ご寄付をくださっていた方でしたが、令和3年2月に94歳で亡くなられ、遺言により、岡山市内にあるご自宅の土地建物や多額の預貯金をモモに寄付してくださいました。

枝松さんのご遺志を尊重し、モモの各ホーム（施設）に在籍している子どもやモモの各ホームに在籍したことのある子どもに対し、それぞれの自立の節目におけるお祝いや学ぶために必要な教材を確保するための資金等に充てるにしました。

本年3月24日の理事会で規約を定め、4月1日、「枝松百合子基金」を設立しました。

基金による助成の方法は、以下のとおりです。

### 1 祝金の贈呈

高校・専門学校・大学を卒業したときや高校卒

業認定試験に合格したとき、各ホームを退所して自立のための第一歩を踏み出すときなどに、お祝い金として3万円を贈呈する。

### 2 機材の貸与

高校・専門学校・大学の学業のため必要な機材（タブレット等）をモモが購入し、在学中、貸与する。

### 3 貸付金

自動車運転免許等、社会生活に必要な資格を取得するための資金を貸し付ける。

助成にあたっては、理事の中から選出された3名の審査員が審査すること、卒業やホームからの自立等の節目に当たる機会が何度もあれば、その都度、祝金を贈呈することなどが承認されました。

これまで、子どもシェルターモモでは、寄付金を子ども個々人の助成のために充てる資金はなかったのですが、「枝松百合子基金」からのお祝いが子どもたちを励まし続けることができるよう基金を継続したいと思っています。

# 新しい職員を迎えて

2021年度後半に2名、2022年度に3名の新採用職員を迎えました。自立援助ホーム「あてんぼ」2名、「学南ホーム」1名、事務局・アフターケア担当2名です。キャリアを積んでこられた方3名、新社会人2名です。西崎専務理事による新採用者への研修として「子どもシェルターモモの理念と社会的役割」と「自立援助ホーム運営指針」についてお話をありました。その内容と、新採用された職員をご紹介します。

## 子どもの権利擁護が活動の基本

子どもシェルターモモは、家庭や、施設で暮らすことができないおおむね15歳から20歳までの子どもたちに緊急避難先（子どもシェルター）と共同生活の場（自立援助ホーム）といった居場所を提供し、子どもたちが自立していくように援助することを目的に2008年に法人を設立し、翌年2009年から活動を始めました。

子どもシェルターは全国で4番目、地方都市では初めての開設で、子どもシェルターも自立援助ホームも岡山県では初めてでした。これまでに、モモのホームを利用した子どもたちは延べ198名になります。モモの特徴はホームに入所した子ども一人一人に、その子の権利擁護のために弁護士がつくということです。子ども担当弁護士（通称コタン）と言います。モモの活動の基本は「子どもの権利擁護」です。子どもたち自身が持っている、よりよく生きる権利を自分が体得していくことを支援していきます。

退所後、一人暮らしを始めても社会経験が乏しいために、再び困難を抱えることが多いです。こうした状況から、2010年からフォローアップ（アフターケア）を開始し、2014年にアフターケア相談所「en（えん）」を開設しました。2016年には岡山市からアフターケア事業を受託し、児童養護施設を退所した人たちの支援も行うようになりました。2021年度には75名に2,713件の支援を行いました。

困難を抱えた子どもへ継続的に支援をしていく体制が作れたところです。高年齢の子どもたちのセーフティーネットの役割を果たしていきたいです。

## 自立援助ホームの理念は

### 「誰一人見捨てない」と「最後の砦」

自立援助ホームは、戦後、東京で社会的養護を必要としながら制度の狭間で福祉、医療、労働、司法などの支援を受けられなかった子どもを対象に、「誰一人も見捨てない」「最後の砦」という思いを持つ人々によって始められたという歴史があります。

自立援助ホームは全国に、現在231ホーム開設されています。14年前、岡山県内にはモモの2ホームだけでしたが、その後、津山市、岡山市、倉敷市にも開設され、現在は6ホームあります。

ホームを利用する子どもたちは、厳しい養育環境の中を潜り抜けて生きているため、必然的に否定的な行



為を表出しやすいです。使用する言葉も否定的な言葉ばかりといった具合です。これは、大切にされ、ありのままを受け入れてもらった経験が乏しいためです。大切にされた経験がなければ人への信頼感を獲得して成長していくことは難しいのです。したがって自立援助ホームでは「しつけ」や「指導」を優先させないで、子どもの自尊心が育まれるように受容的、支持的な関わり方をしていくことが職員に求められます。また対話を中心とした関わり方が求められます。

モモは入所している子どもにも、退所した子どもにも「あなたがもう『必要ない！』と言うまで、繋いだ手は離さない」という姿勢を持っています。

こうした子どもたちと生活を共にする職員の皆さんには、これから大変なこと、困難なこと出くわすことが多々あると思いますが、手を携えて乗り越えていきましょうと話されました。

## 新しい職員紹介



にし もえ か  
**西 萌華さん**

〈所属〉  
自立援助ホーム「あてんぼ」(女子用)  
〈趣味/時間がある時〉  
TSUTAYAで中学生の時に見ていたドラマを借りてきて見てています。  
また、カフェ巡りも好きです。

私は大学3年生の時から、ボランティアとして週1回のペースで、モモのアフターケアに関わってきました。今年、無事に社会福祉士の資格を得て、モモの職員としてスタートしました。

利用者と年齢が近いので、距離感とか難しいのかなと想像していましたが、意外に友達のような、お姉さんの立場で子どもたちが受け入れてくれました。

夕食の準備に取り掛かると、今日の献立を聞いてくる子や、手伝ってくれる子もいて仕事にも慣れてきました。ただ、泊まりの時、6時半の業務開始は、朝が苦手で、起き上がるのにまだ苦戦しています。

よしおか みお  
**吉岡 美桜**さん

〈所属〉

自立援助ホーム「あてんぼ」(女子用)

〈趣味/時間がある時〉

YouTubeでモーニング娘を見て、踊ってストレス発散しています。バイクが好きなので、お金を貯めて、中型バイクの免許を取得し、ホンダレブル250を買いドライブを楽しみたいと思っています。



保育士の免許を持っているのですが、幼稚園、保育園等で働きたいと思ったことはないんです。就職先は、迷いなくモモでエントリーしました。3月から、西さんと2人で「あてんぼ」でボランティア参加しました。4月からは正規職員で泊まりを経験しています。初めて泊った時は一人で不安でしたが、ホーム長や、先輩職員さんから、「ゆっくりでいいよ」「本当に助かる」と言っていただき、自分の中でやりがいを見つけられそうだと感じています。今は、仕事に慣れ、少しでも子どもたちのためにできることを増やしていきたいと思っています。

これまで実家暮らしだったため、料理が苦手で、YouTubeを使って料理しています。



とよた きみあき  
**豊田 公明**さん

〈所属〉

自立援助ホーム「学南ホーム」  
(男子用)

〈趣味/時間がある時〉

旅行が好きで、海外にも行つてきました。今は、お寺や、温泉巡りもしています。野球観戦も好きです。

社会的養護に関わるのは初めてです。職場の雰囲気も次第に慣れると思うのですが、個々違う子ども達との対応に戸惑うことも多々あり、なかなか慣れません。言い換えると、常に何か新しい気づき、学びがある職場です。私が業務中、日々心がけていることは、①ホームで生活する子どもたちが、話しやすい場であるように。②できるだけストレスのない場であること。③子どもと他の職員との信頼関係が保てるような声掛け、態度が必要である事。その為に、子どもとの目線はいつも同じである様に心がけています。

以前の職場は、若い血の氣の多い人たちがいる職場でした。ヤンチャをしてきたなと思う男の子が多くいたこともあり、学南ホームの子どもたちは「かわいい」と思います。先日も、ホームを卒業していく子どもから「ありがとう！お世話になりました」とメッセージがLINEで届きました。うれしい出来事でした。

かた やまと かずのり  
**片山 和典**さん

〈所属〉

事務局/経理

〈趣味/時間がある時〉

ぶらぶらと散歩をしています。最近、YouTubeを見ながら、お菓子作りを始めました。先日、プリンを職場に持ってきて好評でした。



前職場では産業カウンセラーの資格を取得し、就労している人たちの相談を受けたり、就労を継続するために、職場環境の調整などを行っていました。

モモでは経理を担当していますが、もっと子どもたちと関わるところで経験を積んで行きたいと考えています。先日、一緒に履歴書を作成した子どもが、保育園の支援員の募集に合格し、仕事が見つかり、「頑張る！」と言ってくれました。履歴書を作成する支援だけでしたが、「子どもの生活、夢を自己実現させる履歴書」と思いながら作ったので、採用の連絡はうれしかったです。

コロナ禍で、モモの職員が一堂に顔を合わせることがないのですが、少し落ち着いたら、是非会って話を聞き、各施設の方々のご苦労も共有したいです。



えき みさと  
**易 美里**さん

〈所属〉

事務局/アフターケア

〈趣味/時間がある時〉

週1回お気に入りのお店にカレーを食べに行きます。ドライブ、音楽鑑賞もします。至福を感じる時は、鍼や、タイ式マッサージを受けている時です。

私は、10年ほど前に、モモのボランティアとして1年間、その後3年間シェルターの職員となりました。1度退職し、別の職業に就くかたわら、キャリアコンサルタントの資格を取り、その資格を活かした職場を探す中で、再度モモで子どもたちと関わりたいと思うようになりました。

昨年8月から「おしゃべりルーム」をアフターケアの新しい拠点に設けました。しかし現在はコロナ禍で軌道に乗れていません。時期を見計らって、子どもも職員の方々もおしゃべりしてすっきりできる場を作れたらと考えています。以前は肩を張って頑張っていたような気がしていますが、今は未来に不安を持つ子どもたちも、自分の人生を自分で決めて、一歩踏み出してみようかなと思えるような心の支援ができるといいなと考えています。

### 取材を終えて

今回は、子どもシェルターモモの新採用職員研修の場にお邪魔させていただきました。改めて、モモの社会的役割の大きさを感じました。また、これから、初めて社会人になるお二人や、社会を色々と経験をしてこられた方々が、子どもたちを支える仲間になっていかれるのだと思うと、頼もしく感じました。

(インタビュー・文責: 東 りえ)

# 2021年度ボランティアスタッフ養成講座終了

コロナ感染症拡大で、昨年中止したボランティア養成講座を、2021年度は下記のプログラムをオンラインで4日にわたり8講座実施しました。オンラインで行ったことにより、各回60~70名と、たくさんの方にご参加いただきました。講座後、17名の方がボランティア登録されました。

	1	13:30~14:20	モモのミッションと子ども担当弁護士の役割 講師：東隆司さん（子どもシェルターモモ理事長・弁護士）
2月13日	2	14:30~15:20	困難を抱える子どもの理解と援助① 子どもの権利 講師：長谷川久子さん（弁護士）
	3	15:30~16:20	困難を抱える子どもの理解と援助② 人権が奪われることの病 講師：中野善行さん（精神科医・なかのクリニック院長）
2月20日	4	13:30~14:40	困難を抱える子どもの理解と援助③ 虐待が子どもへ及ぼす影響 講師：大重耕三さん（精神科医・岡山県精神科医療センター医師）
	5	14:50~16:00	困難を抱える子どもの理解と援助④ 発達障害者への理解 講師：壺内昌子さん（精神科医・岡山市発達障害者支援センター医療専門監）
3月6日	6	13:30~15:30	困難を抱える子どもの理解と援助⑤ 生きづらさを抱える人へのサポート 講師：高橋聰美さん（中央大学人文科学研究所客員研究員）
3月13日	7	13:30~14:40	困難を抱える子どもの理解と援助⑥ 現場で身近に接した経験から 講師：石原正巳さん（元津山児童相談所所長）
	8	14:50~15:50	まとめの会 ボランティア登録について説明 講師：中野善行さん（精神科医・なかのクリニック院長）

## 受講生の感想

### 第1回目：モモのミッションと 子ども担当弁護士の役割

- 子どもシェルターモモの活動の経緯を知り、たくさんの人の想いが詰まっている団体であることに心を打たれました。困難を抱える子どもたちをゼロにすることは難しいかもしれません、子どもの自立支援等に少しでも力になればと強く思います。
- 設立からの話を伺い、設立時に関わられた方々の想いと、運営をしてこられた方々のご苦労に敬意を払います。

### 第2回目：困難を抱える子どもの理解と援助① 子どもの権利

- 人には、他者から理解されない部分があるということを理解し、子どもや大人にも寄り添える人になりたいと考えました。

### 第3回目：困難を抱える子どもの理解と援助② 人権が奪われることの病

- 抑圧、否認が育ちの妨げになるのか。子どもは親の所有物ではなく、子どもの権利を守っていくことが大切であることを改めて確認できました。被害にあった子どもたちが苦しみながら生きていく様子を見ながら、大人（親）の責任は大きいのだなと痛感しています。

### 第4回目：困難を抱える子どもの理解と援助③ 虐待が子どもへ及ぼす影響

- 虐待ケースへの支援は、子どもだけでなく親の支援も必要であるということが印象深いです。子どもにも親にも関心をはらい、支える視点をもつようにしたいと思います。
- 親のメンタルヘルスなど加害者側が持つ要因に対するアプローチも大切であるという視点に気がつくことができました。
- 子どもへのトラウマケアは、目の前の子どもだけでなく、未来の子どもまで見据えて支援することなど、とても勉強になりました。

## 第5回目：困難を抱える子どもの理解と援助④

### 発達障害者への理解

●発達障害とは、脳のシステムの機能の仕方が違うということや、早期発見は発達障害を治すためではなく、不必要的無理をさせないためであるということを理解できました。

## 第6回目：困難を抱える子どもの理解と援助⑤

### 生きづらさを抱える人へのサポート

●自傷行為が、リストカットのようなわかりやすいものだけではなく、市販薬の大量服用など、見えにくい形のものが増えていることには、とても危機感をおぼえました。自分の中にも少し感じる「生きづらさ」については、先生の「基本的自尊感情は、大人になってからも作っていける」との言葉で、とても楽になりました。

●国の施策が「ボランティアの善意の搾取」であるという表現は、私自身が潜在的に感じていた違和感を言語化してくださったような気がしました。

## 第7回目：困難を抱える子どもの理解と援助⑥

### 現場で身近に接した経験から

●特に印象に残った言葉は、「不適応行動は、子どもの適応行動」です。タバコを吸うのはいけないことだけど、子どもなりに理由があり、背景を理解する必要があると感じました。

●「拒否されるのも関わりのひとつ」という言葉に納得しました。石原さんの体験から発せられる言葉は、ひとつひとつが意味深いもので、「ポジティブなスパイラルが大事」という言葉にも共感できました。

子どもシェルター

## 「モモの家」通信

三寒四温という通り暖かくなったり寒くなったりな気温に翻弄されている今日この頃です。四季があることは美しく素敵なことだと思っていますが、日々の生活で不便を感じる時にはそんな気持ちは少しばかりどこかへ行ってしまいます。

シェルターでは、コロナ渦でも変わらず様々な背景を持った児童が入所し退所していきます。行き場のない子どもがいるということは変わりないままです。それでも私たちはいつも同じことをしているわけではありません。世相を受けて変化をしている子どもの姿に合わせ新たな取り組みもしています。まだ始まったばかりなのでどのような結果が得られるかはこれからです。

子どもシェルターモモも設立されてもうすぐ14年になるそうです。長く関わっている理事やボランティアさん、スタッフの皆さんに、目の前にいる子どもの姿はどのように見えていますか？とお聞きして、これまで子どもシェルターモモでやつて来たことなどをお話ししてみたいです。コロナ渦以前のようにリアルで集まるができるようになるのを楽しみにしています。

最近のシェルターのご紹介としては、至るところから春の芽吹き

が感じられることをお伝えしたいです。一気に草が伸びて草取りが大変だわ、と言うこともあるのですが、寒い時期に当時の入所児童がボランティアさんと一緒に植えた花が、入所中にはほとんど芽が出ることがなかったのが、暖かくなった今頃に大きくなって鉢の中が賑やかになっているのです。シェルターという秘匿性のある場所であることから、見においてといふことも言えないのが残念なくらい元気に育ちました。長期間の入所を想定しないシェルターなので、日常生活を共に過ごしていても、時期のあるものの移り変わりと一緒に感じるということなど、難しいこともあります。それでも季節を感じられるよう、お花やお料理や屋内外の飾りなど、ちょっとしたことに気を配りたいなと思っています。今は視界に入っているのかいないのかわからない感じでもどこかに残っていればいいなと思います。

(文責：HM)



お雛さま



花海棠

# 「あてんぽ」通信

コロナ感染拡大の勢いが収まらない状況が続いています。アルバイト先から、シフトの日数を減らされてしまった子がおり、先の見えない不安を子どもたちと一緒に感じているこの頃です。

また、独り暮らしを始めて巣立っていった子どもたちが、ひょっこり「あてんぽ」へ来ることがあります。先日は他県で住んでる子どもが突然やってきました。平日の日中に連絡もなく訪ねてくるのは、何かあったのか？！と感じました。「夕食を食べてから帰りなよ！」と言うと、嬉しそうな顔をしました。しばらくしてから、「最近、非正規雇用の雇止めにあった。」「お金がないので食事をしていな



庭に蒔いたひまわりの種  
大輪の花を期待しているよ



子どもから贈られた花束

い。」「生理用品や日用品が買えない。」とポツポツ打ち明けます。「これから、どうやって暮らしていくべきいいのか？ 不安で仕方がない」と。訪ねてきた理由が見えてきました。「一生懸命、頑張ってきたんよね～」と私が感じたままを返すと、表情が少しほぐれてくれました。帰宅する際に、支援者から頂いた物品を少しばかり渡しました。こんなことで、この子の生活が好転するわけがないことは、重々承知しているのですが、頑張っている彼女たちを何とか支えたいとの想いでした。コロナの影響は、「あてんぽ」を出た子どもたちにも、厳しい風が当たっているなと感じました。

一方で、仕事が減少したため、「おうち時間」が増え、子どもも同士や職員と過ごす時間が増えてきました。持て余す時間を、お菓子作りや、夕食づくりを手伝う子も出てきました。職員をねぎらい、おいしいコーヒーを入れてくれる子もいます。

この一年で、5人が「あてんぽ」を巣立つて行きました。そのうちの一人から「お世話になりました！」とメッセージ付きの花束が届きました。職員を和ませ、励ましてくれる出来事でした。  
(文責：岡嶋)

# 「学南ホーム」通信

前年度は高校3年生が2人在籍しておりましたが、1人は自衛隊に入隊が決まり、もう1人も無事大学進学が決まりました。

3月30日には子どもの退所と大学入学を兼ねてお祝いをしました。ボランティアの方々に力を貸して頂き、とても良い会を開くことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。会の最後には腕相撲大会が始まり、職員も混じり大盛り上がりしました。今回は自衛隊に入隊する子だけが退所だったのですが、退所する際に「学南ホームに顔を出すときに良い報告が出来るよう頑張ります」と言ってくれました。ホームを出た後もLINEで「色々と迷惑をかけたと思います。いつか恩返しが出来るようにかっこよくなって帰ってきます！本当に今までありがとうございました！」とメッセージを送ってきてくれ、入所した時



スーパーファミコンする令和の少年

と比べて成長した姿を感じ、人の成長を身近で感じられる現場の仕事は良いなと改めて思いました。ただそれと同時に、今回のように子どもと職員が共に笑顔でお別れをすることができ、良い形でホームを

出ることができない子がいることも事実なので、子どもたちが笑顔でホームを退所できるように、これからもできる限りの支援をしていかなければいけないなと思い、身が引き締まりました。

学南ホームには現在、5人の子どもが在籍しています。今年度は大学進学を考えている子が2人いますが、2人ともまだ受験生の自覚がなさそうなので、少しづつ背中を押しながら彼らにとって良い選択ができるように支援していきたいと思います。

ホーム内の雰囲気はとても良く、最近は子どもたちと主にテレビゲームをして盛り上がっています。ゲームはお互いに楽しめて、距離も縮まる最強アイテムの1つです。写真ではスーパーファミコンをしていますが、今はswitchに進化しています（笑）

これまでテレビゲームに触れるタイミングがな

かった子もいて、とても楽しそうにゲームをする姿を見て、もっと色々な経験をさせてあげられることがないかと考えています。

引き続き学南ホームを温かい目で見守ってもらえると幸いです。よろしくお願ひします！

（文責：紙谷）



腕相撲～負けられない戦い～

アフターケア

## アフターケア「en」通信

### 他団体との連携で活動に広がり

コロナ禍で活動を自粛していたアフターケアの中活動ですが、「認定NPO法人ペアレント・サポートすてっぷ」（以下「すてっぷ」）の協力を得て、ずっと温めていたイベントを開催しました。

「すてっぷ」は倉敷市に拠点を置く、障がい児の保護者の支援を目的とした「居場所」「子育てブック作成」「YouTubeチャンネル」「オンラインショップ」と幅広い活動を展開している団体です。我々がこれからアフターケア事業をどう展開していくか考えていく際には大きな夢と希望を与えてくれる存在で、昨年度より見学に行ったり、イベントに参加したりと交流を深めました。

アフターケア相談所「en」に来ている若者達の興味関心は様々ですが、今回は作業を通して楽しい時間を過ごす事ができるといいな、また余暇の時間を上手に過ごすきっかけになるといいな、そしてその先に素敵な作品が作れるようになったら、ちょっと商品に仕立ててみようかな等々、色々な展開を期待



出来上がった巾着袋とティッシュケース

して「すてっぷ」の手作り作家さんに講師として岡町の拠点に来て頂きました。

①3月11日（金）たくさんの素材の中から気に入ったパーツを組み合わせたペン、キーホルダー、アクセサリー作り

②3月15日（火）クラフトバンド（紙のテープ）を編んだバスケットとミニスイツストラップ作り

③3月18日（金）好きな柄を選んでミシンで巾着作り  
初の試みでしたが、講師の先生が丁寧に教えてくれたので予定の時間を大幅にオーバーして参加者全員が作品作りを満喫。夢中になって過ごした時間も、出来上がった作品も、生き生きとした参加者の表情も、全てで大満足のイベントとなりました。

人々「en」にはアクセサリーやハーバリウムを作っている若者もいます。皆が皆、作家を目指すわけではありませんが、より張り合いのある創作活動になる様に、作品を販売する機会も捉えていきたいと思っておりますので、その際には作品を手に取って頂けるとありがたいです。

（文責：古市）



アクセサリーづくり

## 事務局だより

## 第13回子供たちの為のチャリティオンラインプログラムから 今年も多額のご寄付をいただきました！

県内外で活動する有志・企業が集まり、「自分達で出来る社会貢献を…」をテーマに、特に未来を担う子どもたちをサポートしようと始められた取り組みで、コロナ以前は毎年ゴルフコンペで集まったご寄付を頂いておりましたが、今回もコロナウイルスの影響でゴルフコンペは行わず、オリジナル動画を作成され、その収益をご寄付いただきました。オリジナル動画には東理事長も出演させていただき、モモについてのお話をさせていただきました。

ご協力いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。

## 赤い羽根共同募金～「地域から孤立をなくそう」ささえあいプロジェクト～

本プロジェクトは、1月1日から2月28日の期間に、専用の郵便振替用紙で募金をしていただくことで、集まった募金に加算して社会福祉法人岡山県共同募金会から助成をいただけるというものです。今年もたくさんの皆様にご協力を頂き、2,400,000円もの助成をいただけることとなりました。今回のご寄付は休眠預金の助成金で獲得した新たなアフターケア拠点の整備のために活用させていただきます。ご協力くださったみなさま、本当にありがとうございました。

## コストコホールセールジャパン株式会社よりプリペイドカードとご寄付をいただきました！

コストコホールセールジャパン株式会社からは全国の子どもシェルターに多額のご寄付をいただいているます。今年度もご寄付をいただされることになり、5月31日にコストコ広島倉庫店で授与されました。感謝状をお渡しさせていただきました。各ホームの食材や日用品など沢山購入させていただきました。

## イオン黄色いレシートキャンペーンに参加しています

2021年4月から2022年2月の間に投函していただいたレシートの合計は4,619,057円でしたので、その1%の46,200円のご寄付をいただることとなりました。

## Amazon「みんなで応援」プログラムより全国各地から続々とご支援をいただいています！

昨年「グッドガバナンス認証」を受け、Amazon「みんなで応援」プログラムにも参加させていただることとなりました。このプログラムは参加している各団体の「ほしい物リスト」から商品を購入してご寄付いただけるものです。

本プログラムを通じて、全国各地の方々から、沢山のご寄付を続々といただいております。いただいた物品は、各ホームやアフターケアの子どもたちのために有効に活用させていただいております。

ご寄付いただきましたみなさま、本当にありがとうございます！



## 編集後記



事務局の南側の庭には、濃ピンク色のバラの花があります。毎年春と秋には手入れをされているからか？大きな大輪の花を咲かせます。バラの花を部屋に飾ろうかと思うと、毎回、茎についた立派な棘で痛い思いをします。とはいえ、美しい花に魅せられて、毎年、玄関等に飾って楽しめます。今年も28個の「つぼみ」がついていました。まだまだ堅い蕾ですが、これから香り高いバラが咲き始めます。春のプレゼントです。（東りえ）

- ご寄付は金額の多寡に関わりなく下記へご送金頂ければ幸いです。

郵便振替口座 01370-4-52835 特定非営利活動法人 子どもシェルターモモ

(ご送金の際はお名前・ご住所・ご寄付である旨ご記入いただければ幸いです。)